



# みどりの風

## 学校教育目標

- 自ら考えのびる子
- 思いやりのある子
- 進んで体をきたえる子

平成29年5月1日

在籍児童数472名

5月号

## 開校記念日に思う Part2

校長 吉野 高男

季節は、確実に移り変わり、今年も本校の藤棚の藤が淡い紫色の花房を豊かに付け、ハナミズキも満開を迎えようとしています。子ども達は、新しい環境にも慣れ、元気に明るく過ごしています。

6年生は、最高学年としての自覚を深め、下級生を温かく見守ったり、リードしたりと頼もしい光景があちらこちらで見られます。市内陸上大会へ向けての練習も始まり、朝に放課後にと、熱心に取り組んでいます。これらのことを通してさらに「篠津小の顔」にふさわしい子ども達になっていくのだろうと楽しみです。

さて、昨年度の5月号でも5月9日の開校記念日に合わせて、本校の歴史について紹介いたしました。明治6年(1873年)開校ですので、今年度で144周年を迎えることとなります。昨年度は、開校の頃の「大野塾」「篠津塾」を中心に触れさせて頂きました。今回は、本校の現在の姿に直接つながる経緯を中心に紹介いたします。

まず、今の校舎ですが、東校舎が一番古く、昭和41年(1966年)に建築されました。その後本校舎東側が昭和42年(1967年)に、本校舎西側が昭和43年(1968年)に、西校舎が昭和46年(1971年)に、と短期間で連続するような形で、現在の校舎の並びが完成したようです。いずれの校舎も50年前後経っており、まさに歴史の重さを校舎の古さからも感じ取ることができます。また、古い建物でありながら、手入れが行き届いており、卒業生の皆様が大切に使用して頂いたお陰と有難く思います。

そして、まもなく本校は児童数の急増期を迎え、昭和53年(1978年)に本村地区(白岡1・2区)を西小学校として分離しました。西小学校分離直前の児童数が1067名(28学級)ということですから驚きです。現在の体育館は、西小分離後の昭和54年(1978年)に建築されました。そう考えますと約40年前には現在の姿が固まっていたということでしょう。さらに西小分離後、新白岡地区の開発による児童数の増加に対応すべく平成7年(1995年)に高岩地区・新白岡地区を白岡東小学校に分離しました。児童数は分離前が886名(23学級)、分離後が388名(12学級)でした。その後しばらく児童数は380人前後で推移してきました。現在、少子化の影響を受け、多くの学校が児童生徒数の減少期を迎えている中で、本校は微増が続いています。平成18年に400名を超え今年度は482名となり、東小分離後、最も多くなっています。学級数も分離後、最も多い18学級となりました。教室配置は、少々手狭になり、苦慮することもあります。学校は一層活気づいてきており、篠っこの活躍がますます楽しみな状況です。

「不易と流行」という言葉があります。物事の本質はいつの時代でも変わらず、変えるべきことは変えていくということのようです。学校も長い歴史の中で、時代の要請に合わせて良いことは積極的に取り入れて変わっていくべきだと考えます。しかしながら子ども達の人格の形成については、本質を見失うことなく、地域の皆様の篠津小への思いを大切に組み込んでいきたいと改めて考えたいところです。

今月もよろしくお願いたします。